



からしだね

2020年12月号
(565号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

巻頭言：ノノイ・プラザ神父による

「おお来たれ、救い主」

O COME, DIVINE MESSIAH

Fr. Nonoy Plaza

死者を思う日

1月1日までの年間行事予定の変更

今月の表紙絵について

巻頭言

おお来たれ、救い主

ノノイプラザ神父

2020年待降節、みなさまよくお越しくださいました。あと二ヶ月ほどで今年もすぐおしまいになります。でも、ほんとうにおかしな事ですが、厳密に言うとわたしたちは今始まったばかり、とも言えるのです。つまり、新年の典礼暦はスタートしたばかりだということです。

いわゆる3年サイクル日曜日典礼暦では、ちょうどA年が終わりB年に入ったところなのです。あらたな情熱を燃やして新年をだきしめるわたしたちは、前途に横たわる難問や困難がたくさんあっても希望をあらたにします。

息を吹き返したコロナウィルスにどう対応するか、大阪教区は最近あらたなガイドラインを発表しました。第三波の感染に突入しつつある、という声もあります。ですから、まだ警戒を緩めるわけにはゆかない。これでよかろうと無頓着にしたたかなウィルスに向きあうことはできません。もっと言えば、この伝染病疲れに根をあげてしまうわけにはゆかない。しかもコロナは、日本や全世界でわたしたちの前途に待ち受ける数多くの計り知れない難問のひとつにすぎないのです。

でも、わたしたちクリスチャンは楽観しています！いつも神の恩寵が暮らしのなかに働いている、と信じるから。神さまから与えられる隠れた力というものがあります。まさにわたしたちの魂には、この力が吹き込まれています。順境にあっても不運が続いても、それに向きあうには神のこの力を発見して用いる必要があります。

そこで待降節やクリスマスの季節は、わたしたちの内なる力を再発見する手助けとなるべきです。すべてが恩寵だとすると、この聖なる季節がめぐり来たりて、日々の問題ばかりか、精神生活のまさに本質要素に、わたしたちが意識を集中できるように

なるのは、偶然ではありません。

御承知のとおり、待降節は喜びと祈りの季節、イエスの生誕（つまり最初に来られたとき）ばかりか、時が終わってイエス再来に備え心構するときでもあります。ですから、待降節のあいだ、日曜日のミサがイザヤ書の一斉射撃にも似た烈しい言葉で始まるのは驚くべきことではありません。イザヤは救い主の偉大な預言者だからです。

イザヤの時代、ユダヤの人びとは熱心に救い主を慕って待ち受けました。自分たちが道を誤り、神の掟を守らなかったことを分かっていたのですが、魂の奥底では、自分たちをたびたび捉えて放さないすべての悪から救ってくださるのは、真の救世主しかいないことを知っていたのです。

救い主は人であるイエスの姿をとって、すでにこの世においてになった、とわたしたちは信じています。この世にあつてイエスは多くの善きことをなされました。たくさんの人びとを驚くべき技によって癒やされた。罪人を迎え入れ、自分が出会った人すべてに御国が現実であることを教えられた。なるほどイエスは死にましたが、救い主であり神の御一人子であるイエスは、ふたたび蘇（よみがえ）り父の元に戻られたのです。そして、ふたたび私は来る、と約束されました。

待降節とクリスマスの素晴らしい季節、わたしたちは典礼暦によってイエスが戻られるのを待ち受け、同時にキリスト教の偉大な神秘をも蘇らせるのです。

すべてのみなさまに意義深い祈りの季節たる待降節と、そしてメリー・クリスマスを。コロナにご注意！

(2020/11/16)

The heading article

O COME, DIVINE MESSIAH

Fr. Nonoy Plaza

Welcome, everyone, to Advent 2020! This year will soon be over, in roughly two month's time. But quite strangely, and strictly speaking, we actually have only just begun. By this I mean, yes, a liturgical new year has just begun.

We're leaving behind year A, as we enter into the year B of the so-called three-year Sunday liturgical cycle. And we embrace it with renewed enthusiasm and hope despite the many challenges and difficulties that lie before us.

Our Archdiocese has recently issued a new guideline in trying to deal with a resurgent COVID-19. Some say that we're now entering into a third wave of infection. And so, we just cannot let down our guard yet. We cannot slip into complacency in dealing with this highly resilient virus. Worse still, we cannot give in to the so-called pandemic fatigue. And this is but one of the many enormous challenges that lie before us here and globally.

But we Christians are optimists! We believe that God's grace is always at work in our lives. There is a hidden strength that comes from God. And he has put it into our very soul. We need to discover it and use it as we deal with life's favorable and unfavorable events.

The seasons of Advent and Christmas should help us then to rediscover that inner strength in us. If everything is grace, it is no coincidence then that these holy seasons are here once again to enable us to focus not just on our day-to-day preoccupations but also in the very essentials of our spiritual life.

Advent, as we all know, is the joyful and prayerful time when we spiritually pre-

pare ourselves for both the celebration of Jesus' birth, (that was when he first came) and his expected second coming at the end of time. It is not surprising therefore why the opening salvo of each Advent Sunday begins with a reading from Isaiah. Why, because, Isaiah is the great prophet of the Messiah.

During Isaiah's time, the Jewish people were ardently longing and waiting for a Savior, a Messiah. Although they knew that they have gone astray and have not followed the laws of the Lord, deep in their souls they knew that only a real Messiah can rescue them from all the evils that at times took hold of them.

We believe that the Messiah, in the person of Jesus, has already come. While on earth, Jesus did a lot of good things. He performed many miracles of healing. He welcomed sinners and taught everyone that he met about the reality of God's kingdom. He did die, but being a Messiah, and above all, being the only son of God. He rose again to go back to his Father. And he promised that he will come again.

These wonderful seasons of Advent and Christmas are our liturgical ways of awaiting for his return and at the same time making alive again these great mysteries of our faith.

I wish you then a meaningful and prayerful season of Advent and a very merry Christmas to all. Keep safe!

死者を思う日

11月1日、諸聖人の日のミサのあと、納骨室で死者のための祈りが捧げられた。

今年は過密になるのを避け、ノノイ神父様と侍者、信徒代表だけが納骨室に入り、信徒は聖堂で祈った。そのあと家族ごとに納骨室に入って亡き人を偲んだ。



1月1日までの年間行事予定の変更

- 12/ 6 池田市歳末助け合い募金中止
- 12/12 中高生のお泊まり会中止
- 12/20 クリスマス会中止
- 12/20 食物の奉獻を中止
- 12/24、25 クリスマス・ミサ後の茶話会中止
- 1/ 1 新成人の祝福を1月3日に変更

今月の表紙絵について

表紙の絵、「羊飼いの礼拝」はフィンランドの北方、極寒の地、ケンペレにあるケンペレ・オールド・チャーチに飾られているご降誕の絵である。フィンランドの画家、ミカエル・トペリウス(1734～1821)が1785～1795年あたりに描いたもの。イエス様は土地柄を反映して、生まれたままのお姿ではなく、しっかりとおくるみに包まれており、羊飼いたちも暖かそうな衣服を着ているのが微笑ましい。

黙想会のお知らせ

宝塚黙想の家

■日帰り黙想会 10:00～15:30

12月8日(火)

指導：稲葉 善章 神父

12月17日(木)

指導：染野 治雄 神父

12月18日(金)

指導：山内 十束 神父



■月例黙想会

12月9日(水) 17:00～10日(木) 15:30

指導：稲葉 善章 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

編集後記

アメリカ大統領選では民主党のジョー・バイデン氏が勝利しました。J・F・ケネディに次いで米国史上二人目のカトリック信徒の大統領が誕生することになります。フランシスコ教皇はさっそくバイデン氏と電話協議し、バイデン氏は貧困や気候変動、難民問題などの課題に協力して取り組みたいとの考えを教皇に伝えた、と報じられています。

同じカトリック信徒として、バイデン氏の今後の動向が気になります。ちなみに人権派弁護士として活動していたという韓国の文在寅大統領もカトリック。

なお、本邦の政治家では麻生太郎さんもカトリックであることは有名ですが……彼についてはノーコメントということで。